

発言No. 15

受付No. 5

令和8年8月17日

8時 3分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 14 番

氏名 串崎 利行

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 農業の振興について

(1) 農業委員会制度について

- ① 農業委員と農地利用最適化推進委員の人数と活動内容について伺う。
- ② 農業委員は原則、認定農業者が定数の半数以上を占めることが要件であるが、認定農業者が年々減り、農業委員の確保に苦慮すると聞くと、市の状況を伺う。
- ③ 地域の農地を将来にわたり守るためには、行政、農業委員会、JA、地域住民が一体となった取組が不可欠と考えるが、農業委員会とどのように連携を強化し農業振興につなげていくか市の考えを伺う。

(2) 改正労災保険法について

- ① 小規模個人農家でも、人を雇えば労災保険の加入を義務付ける改正労災保険法が成立した。万一の事故に備える労災保険は、雇用主の経営責任であり、労働者と家族の安心に直結する。義務化する2031年度までに、農家への周知を徹底しなければならないが、市の考えを伺う。

(3) 農業機械の盗難について

- ① 農家の大切な相棒である農業機械や軽トラックの盗難が相次いでいると聞く。農作業への支障に加え、農業機械や軽トラックも価格が上昇している中で、盗難被害の経営への打撃は大きいと聞くと、市の状況を伺う。
- ② 将来的な市の考えを伺う。

(4) 耕作放棄地の対策について

- ① 耕作放棄地の面積の過去 5 年間の推移を伺う。
- ② 耕作放棄地の対策として、5 年後・10 年先を見据え、どの農地を守り、どの農地を再生し、誰に使ってもらうのかという具体的な戦略を持っているのか伺う。
- ③ 深刻化する耕作放棄地の解消に向け、ふるさと納税を活用する方法が他市で事例としてある。農地の草木伐採や整地に利用できるクーポンを、ふるさと納税に結び付けた新たな返礼品とされているが、市の考えを伺う。

(5) 農薬危害防止運動について

- ① ドローンによる薬剤散布が広がっていることや直売所出荷者など薬剤を扱う人も多様化している。被爆リスクに加え、出荷する農産物が残留農薬の基準値を超えれば産地全体の打撃となるが、農薬危害防止運動について市の状況を伺う。
- ② 将来的な市の考えを伺う。

2 8050 問題について

- ① 80 代前後の親が 50 代前後の子どもの生活を支え続け、困窮する「8050 問題」が深刻さを増し社会課題となっている。浜田市は、8050 問題に該当する世帯をどの程度把握しているか伺う。
- ② 相談支援について、福祉、介護、生活困窮、就労など関係部署がどのように連携し支援を行うのか伺う。